

ビームトロール網を用いたゴリ調査結果の評価

大前信輔

1. 目的

これまでヨシノボリ類稚魚である“ゴリ（ウロリ）”の資源状況の把握を目的とした調査が2017年から2023年まで行われてきた。データが蓄積してきたことから、調査の有効性を検討した。

2. 方法

調査は近江八幡市長命寺地先の水深約 8m の地点で、ビームトロール網（ビーム長 3m、袋網目合い 1.4mm）を約 6 分、約 1.5 km/h の速度での曳網を 1 回行ったものである。採取された概ね体長 20mm までのヨシノボリ類をゴリとして計量し、曳網面積から 1 m² 当たりの生息重量を求めた。

ゴリ沖びき網漁業（以下、ゴリ曳漁業）の漁獲量は漁獲日誌（2017～21 年）と漁獲情報報告（2022～23 年）から抽出した。生息状況調査と同水域かつ調査日に近い操業日の漁獲量を曳網回数で除してゴリ曳漁業 CPUE (kg/網) とした。

表 1 に示す生息重量とゴリ曳漁業 CPUE (g/m²) についてピアソンの相関分析を行った。調査日と操業日の乖離日数は最大が 9、最小が 0 であった（表 2）。

3. 結果

生息重量とゴリ曳漁業 CPUE との間には有意な相関関係はなかった（図）。すなわち、生息状況調査はゴリ曳漁業の漁況を反映するものではなかった。

表 1 相関分析に用いた生息重量とゴリ曳漁業 CPUE

	生息重量 (g/m ²)	ゴリ曳漁業 CPUE (kg/網)
2018年8月	0.04	6.6
2019年7月	0.12	3.6
2019年8月	0.04	7.1
2020年7月	0.16	1.7
2020年8月	0.20	5.0
2022年8月	0.04	4.4
2022年9月	0.14	4.3
2023年7月	0.06	2.7
2023年8月	0.17	1.0

表 2 相関分析に用いたデータの日付

	生息状況調査日	操業日
2018年	8/20	8/20
2019年	7/18	7/25
	8/9	8/9
2020年	7/17	7/23
	8/21	8/12
2022年	8/23	8/23
	9/16	9/16
2023年	7/21	7/27
	8/25	8/22

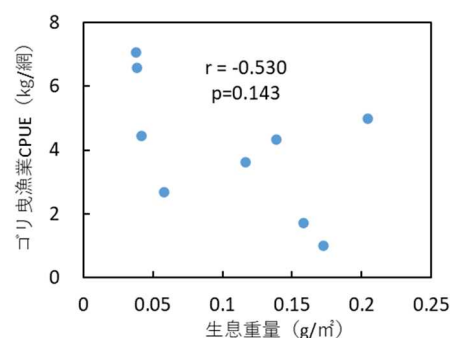


図 生息重量とゴリ曳漁業 CPUE の相関分析結果